

今の夢

五條市立五條東中学校 二年 岸本 妃佳莉

“将来の夢”というのを聞かれて、みなさんはすぐに答えることができますか。小学校での作文や卒業文集などで、定番の題材となっていて、たいていの人は悩みながら書いたことがあるのではないのでしょうか。

私が初めて憧れた職業は、おそらくスーパーの店員です。保育園児のころ、母と買い物に行ったときに、手際よくレジ打ちをする姿を見て、自分もやりたいと憧れたのを覚えています。小学生のころは、絵を描くことや漫画を読むことが好きだったので、イラストレーターや漫画家になりたいと思っていました。今は、中学生になって運動部に所属し、スポーツの魅力を知ったので、何かそれにまつわる仕事がしたいとも考えています。

でも私は、そう思っているだけで、叶えるための努力を本気でしたこともなく、将来の夢を聞かれても、すぐに、はっきり即答できたことはありません。「自分は将来こんな仕事に就きたい」とひとつの意志を貫くのは、それほど簡単なことではないと思います。小学生の間は、知っている職業の中から、華やかで憧れる好きなものを選べばよいのですが、大きくなるにつれて、どんな職業であっても実現することの大変さや、続けることの難しさを知ると、理想ばかり述べるというのも、気が引けるのが本音です。しかし、数年後にはもう将来を決め、進む道を選ばなければならず、そう思うと少しの焦りと、漠然とした不安があります。

そんな中、私はある言葉と本に出会います。

まず、ある言葉とは私の好きな作家・西尾維新さんの言葉です。

『将来の夢なんて、ひとつに絞る必要はないと思う。大きな夢を持つことが褒められることなら、多くの夢を持つことも、同様に褒められるべき。夢に至る道は一本道じゃないし、夢のある場所も一カ所じゃない』

生涯で、ひとつの職業しか経験したことのない人は、意外と少ないのかもしれない。例えば、アルバイトで様々な仕事を経験し、自分の見識を広げることもできます。また、今の社会の風潮として、ひとつの会社に勤めあげるより、転職をして、自分のやりたい仕事を追い求めていくことも、スタンダードな考え方になってきました。夢が多いというのは、希望に溢れていて素敵なことなのかもしれない、と感じました。

もうひとつは、小学生のときに出会った本です。その本の主人公は私と同じで、将来に悩んでいました、学校の宿題で「将来の夢」を書く作文が出て、周りの人のいろいろな夢を聞き、探し、考えて最後たどり着いた夢は、

「強く優しい大人になる。」

ことでした。私は、はっとしました。ひとつの職業に決めなくても、それはとても立派な将来の夢であって、カッコいいなと思いました。

そして気付いたのが、夢を叶えるのは、今ここにいる自分自身であり、「今」をこつこつ積み重ねてこそ、その先に未来の自分がある、という当たり前のことです。これから語るにはまず、今の自分が大切です。だから私は、「いつか」に繋がることを忘れず、今しかできない、今だからこそできる、生徒会活動や部活動、学校行事など、三年限りの中学生を過ごし、今の自分と向き合っていきたいです。

趣味に生きる人、自由な人、道を極める人、人を支える人、国を変える人。夢や生き方は様々です。選択肢を増やし、どれにでもなれるよう、全部にでもなれるように、今が最高のチャンスだと思い、逃がさないようにしたいです。そうして将来の夢を叶えられる人になることが、私の見つけた今の夢です。